

## 平成 27 年度活動報告（留学生交流事業等）

構成団体名 高知大学

（事業名）平成 27 年度外国人留学生課外研修

（実施時期）平成 27 年 10 月 24 日（土）

（事業の概要）10 月 24 日（土）に今年度新たに入学した外国人留学生を対象に日本三大カルストの一つである四国カルスト天狗高原及び梶原町への課外研修を日帰りで実施しました。この研修は、外国人留学生が地域の文化、歴史、地理等を体験し、地域への理解を深めるとともに、留学生間の親睦・交流を図ることを目的としており、留学生 61 名、日本人学生スタッフ 4 名、教職員 8 名が参加しました。

参加者は、最初の訪問地である天狗高原（標高約 1400m）では展望台から望む雄大なパノラマ景色、白い石灰岩が点在する景観、日本の秋の紅葉の美しさに感動し、また、巨大な風力発電プロペラや牛の放牧を前に留学生たちは盛んに写真を撮っていました。その後、天狗荘で参加者全員が地元の食材を使った昼食をとり交流を深めました。

午後は、梶原町を訪問し、町役場の職員から梶原町の歴史、文化、地域産業の取組みなどの説明を受けました。梶原町総合庁舎は、著名な建築家である隈研吾氏のデザインで地元の木をふんだんに使ったダイナミックで自然と調和した珍しいデザインの建物です。引き続き、自由行動として各自が町内の史跡、神社、坂本龍馬脱藩の道等を見学して過ごしました。

参加した学生からは、「いろいろな国の留学生と友達になれてよかった」、「県内地域の歴史・文化への理解が深まった」などの感想があり、留学生にとって有意義なものとなりました。

（交流風景）



## 平成 27 年度活動報告（留学生交流事業等）

構成団体名 高知大学

（事業名）2015 年度学長主催外国人留学生等交流懇談会

（実施時期）平成 27 年 12 月 2 日（水）

（事業の概要） 2015 年 12 月 2 日、高知商工会館において、「2015 年度学長主催外国人留学生等交流懇談会」を開催しました。高知大学に学ぶ外国人留学生や外国人研究者と留学生支援団体や教職員との交流の場を設け、外国人留学生等との親睦を図るとともに相互理解を深める目的で毎年開催されているもので、中国、韓国、インドネシアなど 22 の国と地域の留学生と地元の留学生支援団体、関係教職員等の計 165 名が参加しました。開催にあたって脇口学長からは、「今夜のように、多様な国籍の皆さんが一堂に会する場で、これまで知らなかった友人や教職員と知り合い、友情を深め、友好の輪を広げるために、お互いの心を開いて話し合ひましょう。相互扶助の精神が広がることで、皆さんの母国と日本の「友好の架け橋」となり、たくさんの架け橋が出来ることで、「私たちの間には国境がない」と宣言できるような友情が構築される日が来るのを願っています。」と留学生への励ましを込めたメッセージが送られました。その後、3 キャンパス（朝倉、岡豊、物部）の各代表留学生による日本語でのスピーチが行われ、高知での留学生活の感想や今後の目標、日頃からお世話になっている関係者への感謝の気持ちが述べられました。ステージパフォーマンスでは、モンゴルの伝統的な踊りやバングラデシュの民族音楽の演奏を留学生が披露し、大いに盛り上りました。会場には英語や中国語、日本語など多くの言語が飛び交い、国を超えて楽しく歓談する様子が見られました。最後に留学生全員がステージに上がり、順番にそれぞれの国の言葉で「幸せなら手をたたこう」を歌い、菊地副学長の挨拶と温かなメッセージとともに締めくくられました。

（交流風景）



留学生全員による「幸せなら手をたたこう」



留学生によるパフォーマンス



留学生によるパフォーマンス



留学生と歓談する脇口学長

## 平成 27 年度活動報告（国際交流事業等）

構成団体名 高知大学

（事業名）国際協力機構（JICA）の課題別研修「総合防災行政コース」を受託実施  
（実施時期）平成 27 年 8 月 11 日（火）～9 月 2 日（水）  
（事業の概要）JICA 研修事業は、開発途上国の国づくりを担うリーダーたちを招き、日本の様々な課題解決策を探ってもらう我が国の ODA 事業の一つです。

今回の研修コースは、津波災害が予測される 8 か国 15 名の行政官を招き、南海トラフ大地震等に対する防災に焦点をあて、高知県、東北の被災地、神戸市を中心に実施しました。研修では、まず各国の防災の現状をカントリーレポートとして発表し、その後日本の災害対策や神戸のコミュニティ防災について学びました。東北の被災地へ移動した後、行政・住民それぞれの目線での復興と今後の防災対策について知見を深めました。高知では津波への三重防御対策を始め、南海トラフ大地震・風水害・地盤液状化・土砂災害といった様々な災害への対策を学びました。実際に種崎津波避難タワー等の防災対策施設の視察を通して理解を深めました。また、ハード面に加え、コミュニティ防災や防災ゲーム、避難所運営といったソフト面の対策についても講義や避難所視察、避難訓練への参加等を通して学習しました。また、本学学生によるシティーツアーやお茶会体験、剣道部稽古見学といった交流活動にも積極的に参加してもらい、幅広く高知県を経験してもらうことができました。

研修を受けた研修員からは、「避難タワーなどといったハード面と、日頃からの避難訓練等のソフト面が合わさったときに初めて完璧な防災となると実感した。この日本の経験を母国でも大切にしたい。」「高知のコミュニティにおける災害時の自助・共助の意識を高める取り組みが非常に素晴らしいと感じた。自国でも同様の啓発を図りたい。」といった感想が寄せられました。



## 平成 27 年度活動報告（国際交流事業等）

構成団体名 高知大学

（事業名） 国際協力機構(JICA)の課題別研修「“子どもの学びを保障する”へき地教育の振興－MDGs/EFAの達成に向けて」を受託実施

（実施時期）平成 27 年 9 月 3 日（木）～9 月 16 日（水）

（事業の概要）今回の研修コースは、アフリカ・アジアを中心に 9 か国 15 名の中央・地方の行政官、研究員、教員養成大学の学部長などが参加し、へき地校での教育方法の視察実習、地域住民と学校支援の取組みを視察しました。

高知での研修では、へき地学校の教育法の実践的なノウハウを学びました。高知大学附属小学校において複式学級の指導法を視察・学習し、指導計画の作成の実習を行いました。へき地校では、仁淀川町立別府小学校を訪れ、校内研修の様態を視察し、PTA や老人会の人々から地域と学校の関わりについて話を聞きました。両校で研修員は生徒との交流や給食を体験し、教育レベルの高さと教員の熱心さ、そして地域の方々と学校の親密さに驚いていました。

研修を受けた研修員からは、「日本の複式学級における指導法は問題解決や協力して学び合う能力を高めることができると感じた。」、「へき地において地元コミュニティが信念と希望を持って子供の可能性を信じ、学校と良好な関係を築いているのが印象的であった。」といった感想が寄せられました。



## 平成 27 年度活動報告（地域交流事業）

構成団体名 高知大学

（事業名） 国際 C 級グルメ大会に参加（場所：朝倉ふれあいセンター）

（実施時期） 平成 27 年 12 月 5 日（土）

（事業の概要） 朝倉ふれあいセンターで開催された恒例の国際 C 級グルメ大会に中国、韓国、モンゴル、スウェーデン、ロシア、ウクライナ、イランの留学生が参加しました。ふれあいセンターの調理室は活気にあふれ、さまざまな言語が飛び交う中、慣れた手つきで各国ご自慢の家庭料理が次々と作られました。大会は昼に始まり、地元の方々からも地元の食材で工夫を凝らした家庭料理が出品されました。談笑しながら、色鮮やかに盛り付けられたそれぞれの料理を堪能し、大変有意義な食文化の国際交流の場となりました。参加した留学生からは、「今回の行事に参加して各国の人々と交流ができ、文化への理解が深まった」、「いろいろなおいしい料理が食べられ、自分の国の料理もアピールができてよかった」、「国の料理や文化に興味がある方々と楽しい会話ができた。料理も重要だが会話も重要だと思った」、「各国のおいしい料理のレシピが習いたい」という意見がありました。



（事業名） ミニディーを支援（場所：朝倉ふれあいセンター）

（実施時期） 平成 28 年 1 月 15 日（金）

（事業の概要） 朝倉ふれあいセンターで開催された高知市老人クラブ連合会主催の地域交流ミニディーに韓国、台湾、スウェーデンからの交換留学生 3 名が参加し、老人クラブの皆さんと親睦を図りました。交流会では、老人クラブの皆さんと一緒に体操をし、3 人の留学生がそれぞれの出身地の気候や文化等の特徴について紹介しました。また、かつて日本で活躍された韓国や台湾の歌手の歌を披露したり、ゲームを一緒に楽しんだりしました。留学生からは、「貴重な体験ができて本当に良かった」との感想が寄せられ、双方にとって貴重な異文化体験となりました。

